

こもれびの森通信 11月号

2014

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330

http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 「もりだくさんのイベント」

10月19日、花山の秋を満喫。「きのこ観察ときのご鍋」で大盛り上がりでした。只今、科学館内では「花山のきのこたち」の写真展が開催されています。

24日は花山婦人会の方々13名が、(地元の方々の来館は、チョウ嬉しいです)25日には12名の熟女が「藍染めとピザ」を楽しみました。何時見ても藍色は落ち着きますし、ピザは美味しいです。

11月1日はイベントの都度の力強い助っ人、こもれびの森のサポーターの皆さんとの交流会があり、種の飛び方の研修と「籠編み」の実習を実施しました。

11月16日は、「つるで籠編み」のイベントがありました。今年度の最後のイベントとなりましたが、参加された方々、サポーターの皆さん、スタッフ全員の楽しい一日となりました。

<藍染め作品>



<籠編み作品>



こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)
の大友さんのコーナーです

“果報は寝て待て?” “ラッキー、でも心配” 10月20日、何の収穫もなく疲れて眠ってしまいました。目を覚ましたその時、目の前を小鳥が横切りました。縁石に止まったのは..?まさか今頃..コサメビタキの幼い姿です。親を呼ぶのか懸命に鳴いています。たどたどしく飛んで元の方向に消えました。もう朝夕大分寒くなりました。早くもとの南に移動しないと危険なのではと心配です。その後2度ほど見ましたが親鳥は確認できませんでした。

松の実の種を食べるヤマガラです。秋はよくみるのですが、種をくわえた姿を撮ることができました。今年は子育てやの様子や幼鳥を撮影できました。新しい命の誕生に感動するとともに、幼くして命を落とす厳しさも心打られました。(大友)

<コサメビタキ幼鳥>



<ヤマガラ>



ミツケ! こもれびの森 こもれびの森でみつけたよ

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー

いったい誰が?

時々、歯形のように横一列にポツポツと穴が開いている笹の葉を見かけることがある。観察会などで訊ねると大方の人は首をかしげてしまう。これはハマキガ等が開けた穴で「鉄砲痕」という。葉が丸まっている時に虫にかじられた痕跡で、葉が広がると穴が一列に並び、

「鉄砲痕」は、戦地に行く兵士が「一度当たった(穴が開いた)から二度は当たらない」と銃弾に当たらないようにとゲンをかついで腹巻などに入れたと言われている。実は、鉄砲痕探しはすごく楽しい。一度見つけると「もっとないかなあ」とつい夢中になって探してしまうから不思議だ。

そして、目が慣れてくるといとも容易く見つけることが出来るのだ。なんとなくひかれてしまう魔訶不思議なアナボコである。(は)

<鉄砲痕①>



<鉄砲痕②>



まめちしぎコーナー 省エネつる性植物 ~「キズタ」~

「クズ」などの「つる性植物」は、暑い夏に周りの木々に巻きつきながら、覆いかぶさるイメージがあります。時には巻きつかれている木が枯れることもあります。しかし、常緑で冬の時期に目立つ「キズタ」(ウコギ科)は、チョット変わった生育スタイルをもちます。主に落葉樹にかけ登り、これらの木々が葉を落とす頃から活動を始めます。花は10月中旬に開花し、周囲の木々は落葉していることから、冬から春にかけて、十分に光を受けることができます。

冬でも深い緑色の葉をつけていることから、別名「フコツタ」ともいいます。果実は年を越して翌春に成熟します。この時期は鳥の繁殖期で、鳥たちが果実をよく食べてくれるのを計算しているかのような果実のつけかたです。

覆いかぶさることもなく、日の光を受けて、少ないエネルギーで最大の効果をねらっている植物かもしれません...(千葉)



<「キズタ」の花・ウコギ科特有の形をしている>

雑記

あっと言う間に紅葉の季節も過ぎもう冬支度のはじまりです。森林科学館も今月末で冬季閉館となります。今年もおおぜいの方々にご来館いただきありがとうございました。

私たちの自主企画イベント『ウッドランドクラブ』もいつも募集定員を超えるお申込みがあり、大盛況のうちにみなさまとの楽しい時間を過ごさせて戴きました。

これからも気持ちよく利用できる施設、そして自然とのふれあいの場、癒しの場となるよう職員一同努力していきますので、今後ともご来館ご利用お願いいたします。

また、当館の活動を支えて戴いていますサポーターの皆様へこの場をお借りしましてお礼申し上げます。(山本)